

令和3年度第2回江差町地域公共交通活性化協議会(書面協議)

～ 構成員からの意見及び対応一覧 ～

議題1 地域概況の整理及び地域公共交通調査事業に係る実施内容等の確認		
全構成員からの意見なし		
議題2 町民ニーズ把握調査におけるアンケート調査票(案)		
構成員	意 見	対 応
函館バス株式会社 内澤委員	①アンケートのボリュームが多く、設問をもう少し公共交通の利用意向等に絞った方が、回答率が上がるのではないのでしょうか。	●設問数を減らすことで、回答率を向上させることは考えられますが、地域公共交通調査業務を委託している日本データサービス株式会社より、町民の公共交通に対するニーズを把握するためには一定の設問数が必要で、また他自治体でも同程度のボリュームで実施し、一般的に十分なデータ分析を行う際に必要とされる回答率30%以上が確保できている旨申し出があったことから、当初案どおりこの設問数による整理とさせていただきます。 ●若年層等の回答率を少しでも向上させるため、郵送による回答のほかインターネットによる回答も併用いたします。
	②自由記述欄が小さすぎるような印象があり、また自由記述欄を「江差の公共交通をよりよくするためのご意見を下さい。」等、書き方を変えてはいかがでしょうか。	●いただいた意見を踏まえて、「江差町の公共交通をより良くするためのご意見などがございましたら、ご記入ください。」に表現を変更いたします。
函館運輸支局 経亀委員	③QRコードでのインターネット調査も併用してみてもいかがでしょうか。	●いただいた意見を踏まえて、アンケート調査票の配布時に同封する依頼文に「郵送 or インターネットでのどちらか片方の方法で回答」の一文を添えて、またインターネット回答に必要な情報として「URL」・「整理番号(重複回答による集計を避けるため回答者の識別を図るため)」・「QRコード」を掲載する形でアンケート調査を実施いたします。
特定非営利活動法人 南桧山在宅 福祉支援ゆい 小野寺委員	④函館バスの運行について取り上げる設問が必要ではないのでしょうか。もしくは問14に加えられないのでしょうか。現在のバスを利用したくとも、たとえば「買い物等利用したい時間にバスが来ない」などの多くの声がある。バス利用者の声を吸い上げるいい機会と考えます。	●本アンケート調査は、運転免許保有状況や公共交通の利用目的など公共交通全般における町民の傾向を分析することに重点を置いており、また設問数の関係から設問の新設が難しいことから、函館バスの運行に関する設問は新設しない形で整理させていただきますが、町民による公共交通の運行ダイヤに対しての要望は一定数あることが予想されるため、問14に「移動する時間に利用できる交通手段がない」の選択肢を追加いたします。 ●函館バスを利用するにあたっての町民からのより詳細な意見については、今年度と来年度に実施を予定している「町民意見交換会」において、できる限り吸い上げることで対応してまいります。

特定非営利活動法人 南桧山在宅 福祉支援ゆい 小野寺委員	⑤問 20 について、料金がどれぐらいかで違うのでは。路線バスより高かったら、使わないとか。(問 16 と密接にかかわる問題ですが)	●本設問は、新たなモビリティや路線バスの利用意向等を問う設問ではなく、スマートフォン等の携帯端末による公共交通の情報提供等を行うサービスを利用したいかどうかを問う設問となっております。 ●設問表現が分かりづらいため、内容を分かりやすくするため「～このサービスを利用したいと思いますか」に表現を変更いたします。
渡島総合振興局 函館建設管理部 田中委員	⑥アンケートの性別欄で「その他」を追加しており、「回答しない」又は「回答したくない」の方が良いのでは。 ⑦函館・江差自動車道の本古内 I C が令和 3 年度内に供用を開始する予定と聞いております。そのことにより住民ニーズに変化が無いか確認した方が良いのでは。	●男女による公共交通のニーズなどについての統計的な分析が必要なため、いずれかのカテゴリーを選択していただくべく、性的マイノリティ（LGBT など）に対する考え方を考慮した選択肢として「その他」を設けましたが、逆にその表現に対しての反発も想定されることから、「その他」を削除し「回答したくない」に表現を変更いたします。 ●ご指摘のとおり、本古内 I C 開通による移動ニーズの変化が想定されるところでございますが、本アンケート調査では公共交通の利用状況等の把握をメインとした設問項目としているため、本内容に係る設問の新設は行わない形で整理させていただきませんが、今年度から来年度に実施を予定している「町民意見交換会」において、移動ニーズに関する議題の一つとして取り挙げることを検討させていただきます。
議題3 令和3年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域公共交通調査事業)に関する事業評価(案)		
構成員	意 見	対 応
特定非営利活動法人 南桧山在宅 福祉支援ゆい 小野寺委員	○資料 6 の最後のページ、方針③※の「助成方法や利用枠などの見直しを検討」とは何か。町のこれまでの政策展開の中で、どのような経緯、文脈からでてきたことでしょうか。	●現在、町の高齢あんしん課所管事業として、65 歳以上の高齢者等を対象とした町内バス利用への運賃半額助成券の交付を行っておりますが、更なる利用者の利便性向上や利用数の増加などを図るため、紙交付から nimoca カードによる運用への移行、また利用対象範囲の拡大（町内移動分だけでなく町内から町外間の運行分など）など、助成方法の見直しについて原課担当者と協議していることから、本内容を記載させていただいたものです。 ●今後、町民の公共交通に対するニーズなどについて調査し分析をした上で、本内容の検討を庁内で進めていき、内容に応じて本協議会においても協議事項として取り挙げさせていただきます。

議題4 江差マース実証実験の実施概要等		
構成員	意 見	対 応
函館バス株式会社 内澤委員	①マース事業が本格始動する場合に、既存交通にどのような影響があるか心配をしています。交通空白地域への取り組みは歓迎しますが、既存交通への配慮を今後もお願いしたいです。	●「江差マース」については、町内交通の利便性向上を図るためのもので、将来的な新たな交通モードの導入を目指し今回実証実験を行っておりますが、既存交通ではカバーしきれない部分を補う役割が求められているものと認識しており、路線バスを基軸とした既存交通との共存・共栄が必要であるため、今回の実証実験の利用実績等から問題点や課題を分析していき、来年度以降においては本協議会を中心に、実装化に向けたよりきめ細やかな協議を進めてまいりたいと考えております。
江差町内会連合会 室井委員	②オンデマンド型交通サービスの実証実験が実になり郡部にも拡大することを期待したい。	

以 上